第 28 回 沖縄科学技術大学院大学学園の今後の諸課題に関する検討会
議事要旨

１．日時：令和３年３月８日（月）15:00～17:00

２．場所：Skype 会議／中央合同庁舎８号館１４階内閣府沖縄振興局長室

３．出席者

（１）構成員

相澤座長、西澤委員、岡崎委員、長我部委員、小柴委員、瀧澤委員、宮浦委員、山本委員

（２）内閣府

原沖縄振興局長、水野審議官、中田総務課長、杉田次長

（３）OIST

グルース学長、吉尾 COO ほか

４．議事要旨

各委員から主に以下のような指摘・意見があった。

＜議事３　OIST の 10 年後見直し＞

（「最終取りまとめ」に向けた進め方について）

○ PI が 80 人台になり、OIST のミッションをもう一回見直さなければいけないが、最終的なミッションはどの機関がどういう形で決めていくのか。ヒアリングを通じてそこそこの印象を持ったが、それらを全部やるのではなく、各キーポイントがどのように最終的に皆さんの研究を助けることができるかというところだと思うが。委員会はどこまで踏み込んで話をしてよいか。

○ 検討会のタスクは、これまでの OIST の全体像をつかんで、10 年でどういうところに達しているのか評価すること。研究・教育については、OIST が設置している第三者評価委員会の評価を基本的には尊重する。そして、その評価の在り方、さらに違った視点から加えるべきことを考えるのがこの検討会のやるべきこと。個々の PI の研究の在り方云々は、この検討会が主として行うことにはなっていない。また、予算マターはやはり政府の課題になる。そこに直接的なことをコメントするというよりは、OIST がここまで達成したことについて、世界に冠たるものという本来のミッションステートメントに対応させて、どう判断するか、あるいはどうこれを強く推し進めるべきなのか等々が提言になる。予算そのものについての提言はなかなかしにくい。

○ ヒアリングを聞いて思ったのだが、ネイチャーインデックスなどで評価されているように、設立 10 年としては、世界の先端研究をやるというミッションはそこそこ実行されていると思う。OIST のコミュニティーを世界に作っていくということもできていて、その存在感は、80 人の規模にしては十分だ。ただ、足りない点は、日本人学生への英語のサポート体制。また、卒業した人たちが日本の会社で働いてないというか、日本との関係が非常に微妙だ。日本の予算を使っている限りは、このあたりを強化しなければいけないのではないか。80 人体制でということになると、評価基準の６項目を全て満たすというのはなかなか難しいので、我々としては、ある程度ミッションを絞った上で、OIST には世界最高の研究を目指してほしいし、これからも５年、10 年という形で OIST のコミュニティーを世界に広げてほしい。

○ ヒアリングの中身に逐一対応するということはしない。ヒアリングは、あくまでもヒアリングの対象者とした方々から個別的に御発言いただいたということ。得られた御意見というのは、一つの意見として尊重

するにとどめたい。ただ、ヒアリングで指摘されたことは、第Ⅲ章に、もう少しこういうことも加えてという形で入り込んでくる可能性は十分にある。規模拡充や予算にも関わるようなことは、出てきた意見をそのまま尊重するわけにはいかない。

○ 今回のヒアリングの一番のポイントは、OIST の考えている方向性や、OIST がよかれと思ってやっていることが十分理解されていない、伝え方が正しいのかどうかということ。資料５の留意点では、その点が必要ではないか。

○ まず、この検討会だが、前からいろいろな検討が進んでいるので、それを整理した上で柱立てをする。沖縄の振興というのは重要なタームなので、当然、その中に入ってくる。ヒアリングの御意見は、既に中間取りまとめでまとめられている第Ⅲ章に反映されていくだろう。

○ 構成に関してはそれほど違和感がない。「Ｖ．規模拡充、財政支援の在り方等」に関しては、主としてこういったことを検討する上で必要な視座・視点が何であるか、これをしっかり書き込むということが必要。規模拡充や財政支援の在り方そのものについては、検討会としてどこまで踏み込むのか。

○ OIST には既に将来構想というものがあるので、OIST にそれを説明していただく場が必要であろうと考えている。その計画に対して、客観的な立場からどう議論するかが、この検討会での課題になる。ただし、検討会としては、予算の規模に関するところは相当慎重でなければならない。いろいろな角度から、世界に冠たる大学を作っていくにはという考え方に対して、それをどう位置づけるかというような議論は、当然ここでもあり得る。

○ 第Ⅲ章は中間取りまとめをもう一度よく振り返って、当時考えていたことで本当にいいのかどうか、本日の会議で非公開審議となった学長によるプレゼンの内容も含めて検討し、よりいい方向の書き込みができるといいと思っている。もちろん、予算の規模の具体的な金額などは難しいと思うが、例えば、PI の数はどれぐらいがいいのかということを議論していければいい。

○ 規模拡充の質的な部分を議論する必要がある。分野を広げればいいというものでもなく、かといって、ある程度分野の広がりも持ちつつ、OIST の強み、特色、特徴分野をより強くするための拡充ということが重要なのではないか。規模拡充というと、人数や面積にどうしても目が行きがちだが、質的にどういう拡充を目指すのかという議論が極めて重要。極論を言うと、世界に冠たる研究をやっている PI にどれぐらい沖縄振興に関与してもらうべきか。あるいはそのエフォートも含めてしっかり考えていく必要があるのではないか。全員が同じように沖縄振興に関わっていただく必要はないのではないか。

○ 日本人学生あるいは PI を増やしてはどうかという御意見が一部あった。それは非常に賛成だが、PI については、フラットな競争の中で世界の一部が日本ということで、世界から同じ土俵で採用したほうがいいのではないか。また、いわゆる任期つきのポスドクなどは、日本人の研究者が２～３年単位でどんどん海外に出ているが、そういう感覚で OIST に日本人のポスドク等を積極的に採っていただくというのが一番効果的でやりやすいやり方ではないか。

○ ヒアリングでは、OIST は沖縄の方々に認知は間違いなくされていて、出ている成果も認められていると思った。ただ、沖縄の方々からは接点の見いだし方や OIST と自分たちのリソースとのつなげ方がよく分からないという意見があった。最終取りまとめの中の今後の課題という部分では、OIST の持っているシーズの見せ方、やつながった結果を発信していくことを盛り込むといいのではないか。そういう連携を増やしていくと、連携の母数がある程度出てきて、母数が出てくると、例えば、公的にも民間からも資金の獲得につながっていくのではなか。そういう広がりが出てくると、日本や世界の研究者につなげていくというつながりも出てくるのではないか。

○ ヒアリングから留意点としてまとめられたものをそのまま載せるのではなくて、その御意見に対しては、

検討会としてそれをどう位置づけるかということが議論されて、その結果が最終取りまとめの中に入っていくというスキームが考えられる。この検討会では、基本的に個別の事象について、財政支援をどうするかといった話はあまりふさわしくないのではないか。

○　財政と規模に関して、我々としては、サポートしていく方向で、財源が増える方向で議論したいと思うが、問題は、沖縄振興予算の枠組みの中で増やしていくのか、あるいは世界最高水準の科学技術ということをもう少し強化していくのか、あるいは日本における高等教育の振興という枠組みから、あえて予算を確保していくのかということ。沖縄振興予算の枠組みの中で拡大するのが難しければ、かなり理論武装が必要で、別の方式を取らざるを得ないということが一番気になっている。

○　検討会としては、より水準の高い大学、世界トップレベルの大学として今後も発展していくためには、こういう形がふさわしいという議論が先行する。その中に規模の問題も出てくるという位置づけなので、初めから予算の枠がこうだからという議論よりも、まずその姿をきちんと出していきながら、そして、その実現に向けてはという形で議論を展開していくことになるかと思う。なかなか難しいところだが、その中で、これはもっと高いレベル、政府レベルでの検討をするような仕組みも必要であろうということは、中間取りまとめにもあるとおり、触れることにもなるかと思う。

＜議事４　その他＞

○　次回の検討会から意見交換を自由に行っていただくため、またデリケートな意見も出ると思われるため、内容を一部非公開とさせていただきたい。議事概要は後日公表する。

○　全く非公開というわけではなく、透明性の確保が必要。今後３回開催されるので、その議事概要も、なるべく個人情報を含まない形で差し支えない部分は公開していただくことと、なるべく早く公開していただくように事務局のほうで努めていただきたい。

以上